

歴史公園 鞠智城  
 熊本県立装飾古墳館分館  
 歴史公園 鞠智城・温故創生館



## なぜ鞠智城はつくられたのか？

鞠智城は、7世紀後半(約1,300年前)に大和朝廷が築いた山城です。当時、東アジアの政治的情勢は、非常に緊張していました。日本は、友好国であった百済を復興するため援軍を送りましたが、663年の「白村江の戦い」で唐と新羅の連合軍に敗北しました。このため、事態は急変し、直接日本が戦いの舞台となる危険が生じました。そこで九州には、大宰府を守るために大野城(福岡県)、基肄城(福岡県・佐賀県)、金田城(長崎県)が築かれました。鞠智城は、これらの城に食糧や武器、兵士などを補給する支援基地でした。



### 鞠智城周辺案内図



**温故創生館**  
 鞠智城が築かれた時代とその役割について、展示と映像で学べる施設です。2階には、公園全体を眺めながら休憩できるスペースもあります。  
 開館時間/ 9:30~17:15 (入館は16:45まで)  
 休館日/月曜日 (但し、祝祭日の場合は翌日) 12月25日~1月4日  
 入館料/無料  
 ※ボランティアによる解説もあります。(見学日の2週間前までに要予約 無料)

●お問い合わせ 〒861-0425 熊本県山鹿市菊池町米原443-1 TEL:0968-48-3178 FAX:0968-48-3697  
 HP <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/> E-mail [onnkosousei@pref.kumamoto.lg.jp](mailto:onnkosousei@pref.kumamoto.lg.jp)

年号(西暦)	記事と内容	歴史書
645(大化元年)	大化の改新。律令制が確立(646年改新の詔発令)。	『日本書紀』
663(天智2年)	朝鮮半島での白村江の戦いで、唐と新羅の連合軍に大和朝廷軍と百済軍が敗れる。	『日本書紀』
664(天智3年)	筑紫などに防人と烽を置き、水城を築く。	『日本書紀』
665(天智4年)	筑紫に大野城・基肄城、長門に長門城を築く。	『日本書紀』
667(天智6年)	大和に高安城、讃岐に屋嶋城、対馬に金田城を築く。	『日本書紀』
698(文武2年)	大宰府をして、大野・基肄・鞠智の三城を鎮治する。	『日本書紀』
858(天安2年)	(2月) 鞠智城の兵庫の鼓が自ら鳴る。 (6月) 肥後国菊池城の兵庫の鼓が自ら鳴る。 (6月) 鞠智城の不動尊十一観が火災にあう。	『文徳実録』
875(貞観17年)	カラスの群れが鞠智郡倉舎の葺草をかみ抜く。	『三代実録』
879(元慶3年)	肥後国菊池郡城院の兵庫の戸が自ら鳴る。	『三代実録』

### 歴史書に見る鞠智城【鞠智城に関連する記録】

### ここまでわかった鞠智城

## 貯水池跡出土～百済系銅造菩薩立像～

平成20年10月23日、貯水池跡池尻部から出土した銅造の菩薩立像(ぼさつりゅうそう)です。ほぞを含む高さ12.7cm(像のみで9.7cm)、幅3.0cmの小型仏で、横から見ると、優雅なS字曲線を描いています。下部のほぞは台座に差し込むためのもので太く造り出しているのが特徴です。仏像は、丸みを帯びた穏やかな表情で、頭部に付けられた三面の頭飾、肩まで垂らした垂髪(すいはつ)、両肩にかけられた天衣(てんね)などがよく表現されています。また、持物(じもつ)をへその前で両手で抱えるように持っています。この菩薩像は、7世紀後半に朝鮮半島の百済で造られたと考えられており、『日本書紀』の記述にもあるように、百済の亡命貴族の指導で築かれたと考えられる「鞠智城」の歴史的背景を物語る貴重な資料です。



正面



側面



背面